商人吉帶形気

巻壱

へ13
3963

門 13
號 3963
巻

序

夫高いの道より調練して金銀を儲け出て高
人を高貴を右みし始末たとへ隠れ鳥乃
羽翼はめく車の支輪乃めし高い盛しある所い
上戸の好代よい酒をすゝめ朝夕も魚肉と料理して
主従乃つゞけなく義合して情を出せ高い隙
なる所い墓所より用をつまく始末と才一に兼合て
一所より合く仇銭とちいざらあるみ仕掛る知る代た
始く僕小者まで惜する紙迷惑ゞ高しあ方拵ようを
まろて情を出せ名称の文をたゝ武と右

すべて琴碁書画なども其中に人より勝れて強欲無
ども儲を心掛る者は必大きなる術を出あい過分の
損をとるものぞと仕仰をの高いれかに備れ強き
事公関くに思慮をめぐらし用ひもとめ勤くるもあけ
あしべて不始末にて費なる金銀を捨ふ人尻も
ひとびと糸のめく針を藏よ怪くも捨ることを只
諸商人の動作に始末と專にして勤る世常
形氣二巻を集く侍高のひとるべくする而已

作者 其磧

# 諸商人世常形氣　一之巻

## 目録

第一　目薬見よう涌く出る泉の酒壺
目醫者の家、知り好く生とさし業
一盃うるめく行とい付その酒高賣
働を能る酒屋を賣まわの酒

才二　所から出さる鏑刀切用はきし釈迦

いつそもの為で砕く酒屋乃清き

古くの市場いと多き流きれ方の果

をある者は戯きい我と招ぐ身乃鶴

才三　口物ぬのい袖も狂くい男れのく美じ

ほよい我と吹とく言ひ内ない伺し内紙の去

療治いとしいじくものく悪い金ん薬医者

方のとを寄い紙い寄くとし後楽

一　同業奥より酒く出る泉の酒蔵

泥江始い鯖を酒め。楚よ

方とし見よ同ぐ金沢村て胎内より出るすい牡も

なし。皆九裸しそけしおちろし新い紙の扇人なるけそのま

抜出て。ほい長者とおくるる人せまあまこなり宮に大和の

十里。飯豊村くいつど名ふも河ど表紙さ人限ちこい資

与又素とつよ小百姓新い若ぐ名の家とにまぐの砥ど

釣けの煙ちんぐ多ふし。彼鶴よこら義。河今きま女房を

求ちまい畑打女い本絵減ちまま法抜の中に一る

けるこ帝とよじそ人の釈ようつど不保に人ど。ない

ぜのちに主ものさんに主に夫の婦わとて

年ごろ七十ばかりの老ひたる人のまへに初めて形ちつくりまをしけるに
わたくしまだ幼かりし小僧なりしかのはなのいとまめなる人なりしを
若くして仕ふる色にいづる雲をとどめてとまるべきかは見のがしてよ
ものあるときのまつりの気のこるものする時ものの日まのおちらへ誘ふ
ごとくのと気ばかりよりて慶の物数と素絹を数へ秋の雲峯の高うて
大空をとぶ鳥のひとりあるかたちうごくしるべてまさしく雲でいろはを
と笑へ十二かつきの物をかなる角屋の大掃部をてまをせてちいさい
かごに入れやうの医者の仕ふるて一かさせて毎日仕ようつかまつりゆうて内侍
のつかさのつぼねとて一人ぶんを一人ぶんを一人ぶんを
ぐし我今祈りてもみるかのごとく身をもわさ宿這入りする母分やはの
おしもとすべきごとくなる色毎のけわしきてもまはなとこの人をを断
ふるる密法をもて始めわれ分に高貴ならけとい宮と出てはの間ひを

させて我かごの腐爛のうちをたづねいたりて美のまきふるこの雑くく
と言て国医者めくもつて石をて深切なるる人の云ふ所をさそう
ごとくの度でふをいはるよきをとおれいはのようでごろうはすと
まく中にて不安ばかりて地図と帳て形はとるの度ごるいびはまを
見の形いはのうきくはすとうはるはそれいつの法ようある見よいわ
らどのれとしてかうの穴あるい美にうくず七つ
かう穴のある見とかの山形ふて物憂すて行う見ふたび見に星の
入て見てあいをあるまらに帽子の美法のの破ば
しるものさまのごと。絵ごとくいてゆさくとどくとやて
見えに美ものをはかれまめそいとを行ごひそ屋ようく報行の
おとあて生ものはゆず川西所の下にてらいさに蘭ごやとう
びはいはなるのゆくはのゆくはのゆくは

兄
与市
親父いけん
平生酒ぐせ
せしよろ
妹おさん
きのどくうるあれ
ぐんとうハ酒う
いまをそふる
与右
酒よ
ろこて
ぞ
ぜ
ばらやうえと
七ようハんよい
口わくうもも
よい酒ゝや
万日


ちち茶の
のうぐくを
皮ぜゆう
わるもの
あさひ
貝ゐと
九ゑ
茶よ

常陸国かの七郎左衛門宗の家に
三郎右衛門と申す者二人共に蓋をして
元と百日煩の人形を作る市がおかにて天保に二度と
こみづに煮て七日目に煮出すこと
よくて安きこいしあり市ゐけの地獄
若き葉うて大なるの葉とられぬ
湯の安きいどこあり煮出して
まいと祈もんねばどうくいもうと
外或いは外外外

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ぢとはいふべからず。上戸は[illegible]食
いたがるべし。酒ぐせ[illegible]の[illegible]
わんぱ。[illegible]せずに[illegible]
釈よ[illegible]
三人の[illegible]
若とりける事よ。[illegible]

(二) 外に出た清力切用よ深釈の考見

人いその仏を知て。出どりて力をもつかて過ず。お
ぼてるを考しぱ。ゆるをもとをれし。ゆる沢れ恵をひぱ。てもよろしたた
らわしも恵しぱ。[illegible]釈の考人をてわきい沢ぢ。釈よ
のはねるに恵より事ふは沢と物を出てあれ行よつめを恒い者二三
[illegible]ちらへ仏人の概人よりと。連とをとどは沢ふ吉ぐよんぢ。

[illegible]墨をはれぢんとつ友よ。ぱ小考よ行者れをて宮と出て。ん稲
[illegible]の事多て。出安れよれ牧かく。[illegible]れて。色の[illegible]物よ。
堀こ[illegible]ぢてゆよ。[illegible]
屋まで[illegible]の行の蓑屋。[illegible]
同実関の[illegible]ぢ[illegible]
[illegible]ぱで[illegible]
のあ[illegible]
さ[illegible]
のち仏れい表ふしぱ。[illegible]
ぱびる[illegible]
本所のあ業でないぱ。[illegible]
[illegible]

[illegible]の色あおざめ、くけ[illegible]されゆく[illegible]。おまへのおあと[illegible]上京の汚[illegible]屋の
蟹わが、横奪[illegible]こうされて、[illegible]方[illegible]の[illegible]人、[illegible]ものでれつ[illegible]ひ[illegible]。
かよなまよりくるして、[illegible]内[illegible]わかりて[illegible]
扶わたし、お果かさると、[illegible]対[illegible]めて、[illegible]の[illegible]。[illegible]
[illegible]方[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
ごの[illegible]の[illegible]人[illegible]を[illegible]の[illegible]を[illegible]人[illegible]
[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]

細川の内へ入れ申すべき方へ、かくれ申さんと、
さんざんに、ぜひなく、あるべき命をば、
ぬけのなきことにて、
さて、毋の歌、
ふるさとに、
帰りて、
家をば、
かの、
そこを、
子の道、
出る道、
といつ、
助け申すべきと、

[illegible]
[illegible]
[illegible]

迷惑するといふ力色。知ばかるべし
ゆゑ。ほどくいと丹と云ども。繁とも切ば
りけとのはるゝ。ゝく。ゝ手いさみて出るゝ
丈八財布ケ嶽にしりぞいて。ぞんの一金を
ふけられていぬるの。ほ和歌の名さよ
手今ふいうんぞ。ぞ法人の法使ほとんを
出ゝるの丹ぞ出ゝさ公の名をんせんぞ
ゝ名とぞいゝゝ行の公れ出ゝさ。ぞ法
拾ぶべ一ゝのゆゝ和んをゝひゝ弟といふ
ゝ。ぞ。ゝの公ぞ。ゝ母の角よ
ゝ。ぞのゆゝいゝゝゝにゝゝ。ぞゝと公の角
なゝけまぎゝをゝひゝゝもかやゝぎゝ。ゝ
ぶゝを角ゝぞゝ名もゝそゝゝぞゝ

ぞゝ法今まいれてゆゝぞゝと。ぞを公ゝゝゆゝゝ
和ぞゝゝと合せてゝ。ぞゝゝを法ぞゝゆゝ。ゝゝを行く
ゝ名ゝぞの名ゝとゝゝぞゝゝ。妹ゝゝて行ゝゝ法ゝゝぞゝ和
ゝぞゝゝゝ。今ゝ今のゝゝゝ世のゝゝゝゝ和ゝゝゝ
ゝぞゝゝゝゝ

十の和八分の女の姿にて男は二分の羽ぶそ二分の和と成りて中絶行なはれ
ぶよい二分の二分の絶えが大抵四分の絶えの上の扱ひ[illegible]
かれあつひ人はちぬ間に中絶なるぶ悔ぶ[illegible]
間に人とにてぶつけその絶えに[illegible]
そと三人のねまとにくい人それの絶と延ばとにくとうとうい
おい稼るけ絶とけるの果[illegible]
不義[illegible]と西を釈尺[illegible]
姉の歌さの絶ぶ[illegible]
絶のつぶ[illegible]
四百と[illegible]
戸押[illegible]
とぶ[illegible]

むしぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
毋の釈[illegible]
絶[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

繁昌のさまりて出来ちかいゆへ仕ごと合ゆ
のまてけ〻てるのとちず。惰ものるなよりて
なよ惰まずわるくおい先の人場出て命なとうべきとひ
五百ぬ打せ工つりわれた。秋とつ不ずい出家逝世の男にもるん
いつゆへ。知恵と出家さんよりいとひつ〻もつ〻。我打家にあつ〻。
妹ご五百ぬの後をゞ人が惰むれ。そて先の人立後の人よ立後場
ておう服よ海ごろるおいて前を打一車。五万いひてもくつぬ車と
打れ方れ力粗上さ也。逆を五万るるれど。むかフ不ちの世界とおちあ
ら仕物のかいも。出花のいつしの海と合仕て海ごうくされぬ

三　世初ねの小神し海より勇れの〻実ど

士農工商その家業をよく海ちゃ。仕ごとよるを
出んでとおる内惰まくくぬ。内紀やちくに大海るの稼えゆうも。



意さへ世ると。ちうて。お形仕ち日信の小刺。二月初の〻新信。る利とおよ
いど。尚方様ま。時とおて。表向の月と合と車つ仕ふ。方房いもきうこ。ひべ。
ま仕嫁入もて。まこ海とうず。内紀よまて。ふ神ぐんどて入れぬ
うど。衣雲新ぐ。ぬ。のこ。ちうも。ゆに代信て。ど。掛て。表ぬ。ざう。用
性系。東こ。の。行ん。と。假初ふ。て大。な。新ま。よ。お。地。ぬ。代つまて
出るぐど。つまる。ふいも。表ひ。の。ふく。基て。いるも。十。香。稲。ちぐ。きく
合ち。ちぐ。れ。いろ。げ。ち。ち。ひ。ば。ふ。ま。ま。ら。ら。れ。べ。仕。何。ぬ。人
月。沢。牙。ぐ。表。て。ま。ぐ。ぬ。の。ら。ふ。ち。ち。ぶ。ち。ち。ま。車。の。出。く。ぬ。ぬ。ち。ち。ふ
月。新。よ。地。打。世。と。き。つ。ち。こ。そ。ち。ま。て。ち。地。ず。く。町。人。海。い。新。石。仕
当。府。分。い。ち。こ。人。ち。の。い。す。の。と。ち。面。海。仕。ち。ま。て。ち。ち。ぬ。ち。ゆ。ち
入。ゆ。ち。知。ゆ。ち。表。出。ち。ち。と。海。い。ち。市。気。い。ぬ。。。仕。の。ち。市。月。合。ね
と。新。儀。よ。倹。海。て。て。ち。ち。ち

町ノ年寄

紀州たと[illegible]所[illegible]清[illegible]れのはてぞ。[illegible]て。
芝居人にしてござりわしはこの[illegible]
世方のげいの芸男のみる人世の情よつて[illegible]
まで[illegible]と。[illegible]俗に[illegible]出人の者[illegible]
さつてもぬぐてそでいうもくとどれも[illegible]
ぐ。俗よ[illegible]とおもげるの世るのあ[illegible]
日くとりをこるに俗に俗[illegible]
所奥れのはなすきこのはなもつのるをもてくる賀に[illegible]
帽子の所よ古袴を[illegible]
白粉の香もあて髪うもど[illegible]
石白粉て[illegible]
[illegible]

思人を減ひろきあとせだくすくあてあやメクあどすふい俗多よ
して家屋敷をあやふいあるとはあるはいるとはあるはいば。
俗合の所あるて芸のやふにおるとすものるしたが芸能をあて茶屋を
はは俗をきやふて。表つけるあ[illegible]と。俗よ俗俗するあやふきわ
ぐ[illegible]ほ[illegible]をいあ[illegible]一同医者とい人の目いよくあるやふた
俗をふるはど。我身とい法界にはあはうあ。芸でい格俗漁ねるをい
おのそぐ。あそつけわふ法で[illegible]ない為いてるぐ。門だるぐ同病
ようはかの病人いせるはるくぐ。もと三三年の中はいそ[illegible]
あるて。芸[illegible]大分あるあるとあ[illegible]服医とあるは仕人。[illegible]
[illegible]法せば。内[illegible]の美入よるるるべとぐ芸[illegible]
我と人[illegible]の所の[illegible]へ。[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]医者の[illegible]
[illegible]人[illegible]薬[illegible]の[illegible]
[illegible]人[illegible]一[illegible]大[illegible]内[illegible]
[illegible]ばかりせて[illegible]薬[illegible]薬[illegible]
[illegible]方[illegible]
一服[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]所湯治[illegible]ものの[illegible]
めつらしそうなる仕よ所内の[illegible]
[illegible]とやあさせ[illegible]おいていも[illegible]とけば[illegible]
の中に熱病の[illegible]中に[illegible]
[illegible]中し[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆ。目医者いまだいとくすしなれども。薬を用い
らるまたまさごろに眼中病て久しくの人。
薬を行ずして久せざれば。薬を病人の脈をうかがひ。ちづく工夫をなし
けるに脈病一様さるるいまは全体きべきぶに脈絡を診候するに。
近付は見の和よりの狂和出来ぬ。ひとまずのくぼを名ぶを
付て見けるのうがなるとは後わるべかりそもそも色つきよりの。脈そもま
つぐつまりことなるべ。今御合佳る薬に脈病よいかしらず。見の狂和
の出ぬやうの薬をもうすると。二脈合て治すれば。病人ふるうど。
たく目いつぐれども命をそなるるとなれば。目とひきそびて見のうと若おれ痛
血筋もうるぶみもやうにしぐぶろう見のうれ狂和のうてゆるとを
つぶひぐそ薬を行とよびてぶ新そ脈病いを後いとまうるれぶ見の

狂和ろ薬にうてすやわぶで明るかぐ病をとぶ後下さるとぶ。見をはうろ
つをぶされ狂和いやうてうするに及ばどぶ元中脈病中全快をなるく。
和見の狂和のうのは。快薬が後ろ薬を家づひるさるまで。光の脈病に家
遅として脈中に集る血筋をう病とるぶ。脈病を家
そもの医者に家と後と薬と更ひるれぶ。命見のうて上家見のおを。
く眼中に家凝て手負うれと人付ゆ。薬方計をい上達の家後ぐ
ぶの薬を命をれ行の方初め脈和出来ぶ見べきろ。沖ひるく人をき
よく方後をとぶ。脈病を家と付をぶ見のうに家を付をぶ。
るい遅をの薬をひうを下へ後と働るとをれる後を働をるる
療法のいをうをぶ薬にあるぶ。ぶはい後るゆるを方をるて薬和
ものはうらかてゆめうれる
商人世界形容秘訣　巻之一終